

令和4年7月11日

東部農林水産振興センター出雲事務所農業部

標 題	～環境にやさしいぶどう栽培とコスト削減による担い手の経営発展に向けて～ 出雲市グリーンなぶどう栽培体系実証協議会が設立
-----	--

(ダイジェスト)

7月4日、出雲市役所市民対話室において、生産者と関係機関で構成する出雲市グリーンなぶどう栽培体系実証協議会が設立されました。
本協議会は、国のみどりの食料システム戦略交付金を活用し、ヒートポンプの導入による環境にやさしい栽培体系への転換や、ハウスの温度管理自動化による労働コスト削減に向けた実証に取り組み、次世代につながるぶどう産地を目指します。

消費者の環境意識の高まりや燃油高騰を受け、加温デラウエア生産におけるCO₂削減やコスト削減、省力化に向けた取組みを進めるため、出雲市・JAしまね出雲地区本部・JAしまね出雲ぶどう部会・実証農業者・当農業部で構成する本協議会が設立されました。

実証期間は今年12月から来年5月まで、燃油削減によるCO₂排出量や作業時間の削減効果、導入コスト及び果実品質等について検証し、新たな栽培体系や省力化の取組みの普及につなげる計画としています。

会長に選任されたJAしまね出雲ぶどう部会長は、「少しでもコストダウンにつながれば燃油や肥料の高騰に苦しんでいる生産者に勇気とやる気を与える。新規就農者を呼び込むための良いきっかけにもなる」と期待を語りました。

JAしまね出雲ぶどう部会では、昨秋から関係機関と農家が産地の将来像について検討を重ね、今年4月に「出雲ぶどう産地再興ビジョン」を策定しました。このビジョンでは、産地として中核的な担い手の経営発展を支援し、新規就農者の育成に取り組み、次世代につながるぶどう産地を目指すこととしており、本協議会の実証試験もこのビジョンの一環となるものです。

当農業部としては、今後も引き続き関係機関及び生産者と連携しながら、産地再興ビジョンの着実な実践を支援していきます。



本実証に対する期待を述べられる部会長



管内で普及している一般的な加温機